



ユニバーサル社会づくりについて

平成17年度県民意識調査 ～あなたのご意見をお聞かせください～



震災からの創造的復興の中で、私たちは支え合うことの大切さを学び、「共に生きる」ことに思いを寄せながら「福祉のまちづくり」「障害のある方への声かけ運動」など、人にやさしい生活環境づくりを進めてきました。

少子高齢社会が本格化する今、年齢や性別、障害、文化などにかかわらず、だれもが、同じ地域社会の一員として、主体的に生き、社会の支え手となるユニバーサル社会を県民のみなさんとともに構築していかなければなりません。

この調査は、「ユニバーサル社会づくり」を進めるにあたり、県民のみなさんに広くご意見をお聞きし、今後の具体的な取り組みに反映させていこうとするものです。

県民のみなさんの中から、あなたを回答者のお一人に選ばせていただきました。ご多忙中、まことに恐縮ですが、ぜひご回答をお願いします。



平成17年9月

いど としぞう
兵庫県知事 井戸 敏三

※ 回答ご記入についてのお願い

- ご回答は、必ず**あて名の方が**ご記入くださいますようお願いいたします。
 - ご記入いただいたアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れて、恐縮ですが、**10月18日（火）まで**にご返送くださいますようお願いいたします。
 - この調査は無記名でお願いしておりますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。
 - 調査結果は、来年2月をめどに、県ホームページ等で公表するとともに、県政の貴重な資料として活用させていただきます。
 - 調査についてご不明な点がありましたら、下記にお問い合わせください。また、点字の調査票を用意いたしますので、必要な場合は下記までご連絡ください。
- ◆兵庫県県民政策部知事室広聴課広聴係 TEL 078(362)3021（直通）

“ユニバーサル社会づくり”って？

みなさんは、ユニバーサルデザインという言葉をご存じですか？ バリアフリーが、障害のある人が社会生活をしていく上でのバリア（※注）を取り除こうとするものであるのに対し、ユニバーサルデザインは、設計段階からすべての人が共通して利用できるように「もの」や「まち」をデザインしようという考え方です。

※注：障壁（しょうへき）と言われ、行動をさまたげるもの、じゃまをするものをいう

シャンプーをリンスと区別できる容器のギザギザ	立ったまま使えるくつぺら	絵文字や英語表記の入った案内板
乗車しやすいノンステップバス	車いすやベビーカーでも通りやすい広い改札口	お金の投入や商品の取出がしやすい自動販売機

このユニバーサルデザインの考え方を、人の意識をはじめ、まちの構造や社会のしくみ全般に取り入れることで、現在の私たちの周りに存在するさまざまなバリア～道路の段差や働く上での制約、わかりにくい情報、異なる立場の人を遠ざけようとする意識など～を解消し、だれもが暮らしやすい環境をつくることができます。

このようなユニバーサルデザインの考え方で社会環境を整備することにより、「ユニバーサル社会」（だれもが暮らしやすい社会、だれもが参加できる社会）の実現をめざしています。

Q1 あなたは、左に書いた「ユニバーサルデザイン」という言葉や考え方をご存じでしたか。1つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 言葉と考え方の両方を知っていた
- 2 言葉は知っていたが、考え方は知らなかった
- 3 言葉も考え方も知らなかった

Q2 あなたは、ユニバーサルデザインの考え方を普及させるべきだと思いますか。1つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 普及させるべきだ
- 2 普及させる必要はない
- 3 わからない

ユニバーサル社会の実現には、まず、だれもが住み慣れた地域で、安心して「住まい」、「まち」のどこへでも安全・快適に移動し、活動できる生活の場の整備が必要です。

Q3 齢(とし)をとっても、障害をもつことになっても、安心して住まうために、あなたは、どのようなことが重要だと思いますか。2つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 住宅設備のバリアフリー化をすすめる
- 2 お互いに協力しながら共同で生活できる住宅をつくる
- 3 公営住宅を整備する
- 4 家主や隣人が高齢者や障害のある人に理解をもつ
- 5 住民同士の交流を盛んにする
- 6 気がるに相談できる生活援助員を配置する
- 7 食事や介護サービスを手がるに利用できるようにする
- 8 緊急時に医療サービスを受けられる施設を整備する
- 9 わからない

(11)

Q4 あなたがお住まいのまちの整備状況(ア)から(サ)の各項目について、1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

(12-22)

よく整備されている	ある程度整備されている	どちらともいえない	あまり整備されていない	ほとんど整備されていない
-----------	-------------	-----------	-------------	--------------

(ア) 段差のない歩道	1	2	3	4	5
(イ) 歩道の点字ブロック	1	2	3	4	5
(ウ) ベビーカーや車いすでも通行できる幅の広い歩道	1	2	3	4	5
(エ) ベビーカーや車いすでも利用しやすい区画の広い駐車場	1	2	3	4	5
(オ) 駅など多くの人が利用する施設のエレベーター	1	2	3	4	5
(カ) 階段の手すり	1	2	3	4	5
(キ) 車いすでも使用できるトイレ	1	2	3	4	5
(ク) 音声案内、外国語や点字表記のある表示や案内板	1	2	3	4	5
(ケ) 授乳やオムツ替えができるスペース	1	2	3	4	5
(コ) 車いすでも利用できるカウンターやテーブル	1	2	3	4	5
(サ) お金の投入や商品などの取出がしやすい自動販売機や券売機	1	2	3	4	5

Q5 だれもが活動しやすいまちづくりを進めるために、必要と思われる項目を、2つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 気がるに休める休憩場所を設置する
- 2 バス停や玄関・通路に屋根を設置する
- 3 だれでもわかる絵文字案内板を普及させる
- 4 電線類の地中化により電信柱などをなくす
- 5 青色時間を延長できる歩行者用信号機を設置する
- 6 電車と駅ホームとの間の段差やすきまをなくす
- 7 ノンステップバスや福祉タクシーを普及させる
- 8 携帯電話などを用いて得たまちの情報により迷わず移動できるしくみを普及させる
- 9 その他()

(23)

「まち」の整備だけでなく、「ひと」が互いに支え合う気持ちを持たなければユニバーサル社会は実現しません。

Q6 「まち」で見かける「ひと」の態度で特に問題があると思われる項目を、1つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 歩道に自転車を放置したり、商品などを陳列(ちんれつ)している
- 2 点字ブロックや車いす用スロープに物を置いている
- 3 歩道を道幅いっぱい広がって歩いている
- 4 電車やバスなどで、高齢者などに席を譲らない
- 5 困っている人を見かけても、見て見ぬふりをしている
- 6 その他

(24)

だれもが安心して、元気に生活するためには、すべての人にわかりやすく、アクセスしやすい「情報」の提供が重要です。

Q7 県が提供している印刷物を、だれもがもっとわかりやすくするために、必要と思われる項目を、2つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 文字を大きく読みやすくする
- 2 写真や図などを多く使う
- 3 むやみにむずかしい言葉やカタカナ表記を使わない
- 4 むずかしい漢字にふりがなをつける
- 5 専門用語や外来語に説明を加える
- 6 点字で作成した印刷物を用意する
- 7 外国語表記の印刷物を用意する
- 8 内容を音声で聞けるカセットテープなどを用意する
- 9 わからない

(25)

Q8 県が提供しているテレビ番組やビデオを、だれもがもっとわかりやすくするために、必要と思われる項目を、2つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 字幕スーパーにより話の内容を表示する
- 2 手話通訳の映像を同時に表示する
- 3 文字画面を増やす
- 4 外国語のナレーションを入れる
- 5 音声で場面の内容を説明する
- 6 わからない

(26)

Q9 県が開設しているホームページを、だれもがもっと利用しやすくするために、必要だと思われる項目を、2つ選んで番号に○印をつけてください。
(県のホームページ <http://web.pref.hyogo.jp>)

- 1 文字を拡大表示する
- 2 写真や図などを多く使う
- 3 音声により読み上げる
- 4 見やすい色合いに配慮する
- 5 むずかしい漢字にふりがなをつける
- 6 スクロール(画面を上下左右に動かすこと)しなくてもよいよう全体を一画面に表示する
- 7 必要な情報をすぐに見つけられるよう検索(けんさく)を工夫する
- 8 内容をわかりやすくまとめる
- 9 わからない

(27)

Q10 現在、携帯電話のメール機能を使い、あらかじめ登録した人に災害などの緊急情報を確実にお知らせする方法が実施されています。あなたは、この方法を利用したいと思われませんか。1つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 すでに利用している
- 2 今後、ぜひ利用したい
- 3 経費がかからなければ利用したい
- 4 手間がかからなければ利用したい
- 5 利用したいとは思わない
- 6 携帯電話を持っていない
- 7 わからない

(28)

社会への「参加」、特に障害の有無や年齢、性別などにかわりなく、だれもが「働く」ことができる環境をつくるのが重要です。

Q11 障害のある人とない人が同じ職場で働くという経験をしたことがありますか。1つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 ある
- 2 ない
- 3 わからない

(29)

Q12 障害の有無や年齢、性別などにかわりなく、だれもが働けるようにするため、企業などが特に取り組むべきと思われる項目を、1つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 働く人の状況に応じて勤務時間を選べる制度をつくる
- 2 働く人の状況に応じて仕事をつくる
- 3 試行的に働ける機会を設け、状況に応じた仕事を見つけてもらう
- 4 段差をなくしたり、託児室をもうけるなど、働きやすい職場環境をつくる
- 5 コンピュータを使って自宅でできる仕事を増やす
- 6 わからない

(30)

Q13 だれもが働ける環境にするため、県が特にバックアップすべきと思われる項目を、1つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 障害の有無や年齢、性別などにかかわらず、ともに働く意識を育てる
- 2 働く人の職業能力の向上を支援する
- 3 就職希望者への職業紹介を充実する
- 4 職場に仕事や職場環境改善の指導員を派遣する
- 5 安定的に継続して働くための相談体制を充実する
- 6 積極的に取り組んでいる企業を表彰したり財政的に支援する
- 7 障害のある人たちによる売れる商品作りを応援する
- 8 その他()
- 9 わからない

(31)

だれでも暮らしやすく、参加できるユニバーサル社会を目指してバリアのない社会環境をつくっていくため、私たち一人ひとりが行動を起こしていくことが重要です。

Q14 バリアのない社会環境づくりにとって、あなたが最も重要と思われることは何ですか。1つ選んで番号に○印をつけてください。

- 1 安心して暮らせる「住まい」づくり
- 2 安全で快適に移動できる「まち」の環境づくり
- 3 互いの個性や立場の違いを理解し、支え合う「ひと」の意識づくり
- 4 必要な「情報」がだれにも伝わり、理解できるようなしくみづくり
- 5 だれもが能力を発揮して「働く」ことができる環境づくり
- 6 バリアを感じている人が、その解消のために主体的に「参加」するしくみづくり
- 7 わからない

(32)

Q15 次の中から、あなたが身近でできそうと思われる項目を、いくつでも選んで番号に○印をつけてください。

- 1 自宅の段差をなくすなど生活しやすくする
- 2 家事や子育て、介護などを家族で分担する
- 3 隣近所のお年寄りなどに声をかける
- 4 地域の集会所のバリアフリーについて、みんなで話し合い、改善する
- 5 自治会などの地域活動に積極的に参加する
- 6 地域イベントにだれもが参加するよう呼びかける
- 7 ボランティア活動に積極的に参加する
- 8 困っている人を見かけたら、声をかけ手助けする
- 9 電車やバスなどで、お年寄りなどに率先(そっせん)して席を譲る
- 10 点字ブロックの上に置かれた自転車などを移動させる
- 11 働きやすい職場環境の改善を提案する
- 12 在宅勤務やワークシェアリング(※注)など、だれもが働きやすいしくみを提案する
- 13 介護や福祉サービスなどの事業活動に参加する
- 14 その他()
- 15 何もない

(33, 34)

※注：一人あたりの働く時間を短くし、多くの人で仕事を分け合うこと

